

* * * *

本報ではユリ科のヒメニラ、アマナ、ウバユリ、オオウバユリ、ホウチャクソウ、ミヤオソウ科のサンカヨウ、レンブクソウ科のレンブクソウの染色体数および核型について報告した。ヒメニラは雌および性型不明の栄養型の個体について調べたが、いずれも 3 倍体で $2n=24$ であった。この種より 3 倍体が見いだされたのは今回が初めてである。アマナからは $2n=48$ 、ウバユリ、オオウバユリからは $2n=24$ の染色体が観察された。ウバユリとオオウバユリでは基本核型は同一であることが見いだされた。ホウチャクソウはすべて $2n=16$ で他の報告者の結果と一致する。しかし、核型は第 4 対 (No. 4) の染色体が 2 次狭窄を長腕の末端部をもつ点で異なっている。サンカヨウは $2n=12$ で既報の結果と一致する。Lee (1967) は朝鮮の植物で $2n=16$ を報告しているが、詳細な核型分析の結果が待たれる。レンブクソウはすべて $2n=54$ で 3 倍体であった。各染色体組に数多くの satellite が見られるのが特色である。satellite の正確な数と分布に関してはさらに詳細な研究が必要であろう。

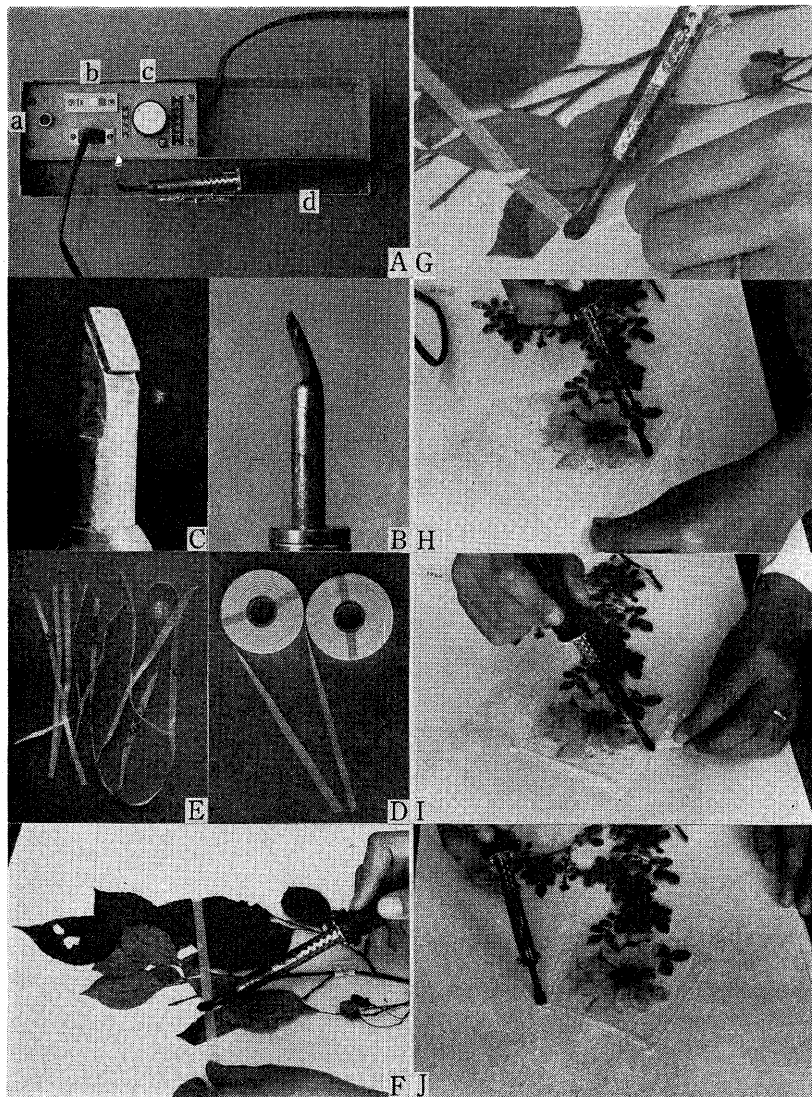
○おしば標本の新しい貼付法 (金井弘夫) Hiroo KANAI: Heat-seal, a new mounting technique of herbarium specimen

先に本誌 47: 120 (1972) において本法の概要を發表しておいたが、その後改良を加え満足すべき結果を得たので報告する。既報の如く本法の骨子はポリエチレンラミネート紙のテープをハンダ鋺を用いて台紙に熔着するというものである。

まずラミネート紙であるが、これは市販品があることを知った。きわめて薄い和紙又は化繊紙の片面にポリエチレンをラミネートしたもので、南国パルプ工業の製品はヒートロンとよばれ、東京加工紙製のものはラミコートという。この種の紙は最中などの和菓子の包紙によく用いられているので、少量ならこれを利用できる。紙質はヒートロンでは $PCS\ 30\ g/m^2$ が適当だった。この紙は何枚も重ねると互に滑ってしまつて切り難い欠点があり、後述のような商品としてテープを製作する場合には幅 7 mm より細くは切れない。テープを手製するならば 4 mm と 8 mm の 2 種類を用意するとよい (図 D, E)。次にハンダ鋺であるが 60~80 W のラジオ用がよい。先の太いものは先端を約 30° に斜に削り、面を長方形にヤスリで仕上げる (図 C)。先が細い鋺は先端をたくきつぶしてから角度をつけて曲げる。先端は約 90° の角度をつけて左

図. 1 説明は本文中。Fig. 1. A. Mounting instrument. a: Pilot lamp. b: Switch. c: Regulator. d: Mounting iron (Made by Futaba Seisakusho). B, C. Tips of mounting iron. D. Mounting tapes on sale (width 7 mm and 10 mm) (Made by Futaba Seisakusho). E. Mounting tapes made of the wrapper of sweet cake. F. How to mount specimen. G. How to cut tape. H-J. How to cover fragile portion. H: Place polyethylene sheet over the portion and heat seal it with the aid of mounting tape. I: Cut off the excess portion of sheet with the tip of mounting iron. J. Heat seal the tape again firmly with the bottom of iron.

右を削っておく (図 B)。使い心地の良さは折り曲げる角度と先端の形で決まる。柄は適当に切り詰めた方が使い易い。そのまま通電すると紙を焦がすので、直列抵抗を入れて電流を弱める。60 W の鍍に対して 80 W の白熱電球を入れたら適温が得られた。



可変抵抗を入れれば更に便利である (図 A)。

この道具を用いて標本を貼付けるのは至極簡単である。前記のテープをラミネート面を下にして台紙上に置き、鑷で軽くなぐれば即座に熔着される (図 F)。テープを必要な長さ前に切っておく必要はない。鑷を平に当てたままテープを捻り気味に引張れば簡単に切ることができる (図 G)。この点は従来の紙テープと違って大変便利である。テープが薄いので、切口がささくれていても全く気にならず、また葉や花の上にかゝるテープも同じ理由であまり邪魔には感じられない。テープは薄くても丈夫なので、従来は糸でかぶりつけねばならなかった太い枝や果実も十分とめられる。台紙への接着力はアラビア糊より強力で、熔着が十分ならばはがれることはまず無い。テープを途中で継ぎ足したり、T字型にとめたり、葉や果実の表面に熔着して貼付を補強することもできる。

弱くて大きい花や崩れ易い果実などには、次の方法できれいで永保ちするカバーをかけることができる。先ず花の上に大き目のポリエチレンシートをかけ、花のまわりにテープを置いて鑷を点々と当てて行くとシートは台紙に熔着される (図 H)。次に鑷を立て、先端でテープの外側をなぞって行くと、余分のシートを切り離すことができる (図 I)。これが済んだら鑷の腹でテープを押えて十分な熔着を行なう (図 J)。標本の破片などはうすい紙袋に入れ、テープを2本かけてぬきさしできるようにとめる。ラベルやノートのような大きな紙片も本法で貼ることができるが、時間を喰うのでアラビア糊で貼る方が能率がよい。

本法の長所はテープの切り方が簡単であり、標本の仕上りがスッキリしていることにあるばかりでなく、ちょっとさわれば一瞬のうちに固定されるので、糊が乾くまでに弾力で持ち上ったりせず、しっかりとめるために力を入れておさえつけたりする必要がない点にもある。標本室の種カバーや属カバーに学名を記す際にもこの種の紙にタイプライトして熔着すれば手際よくやれる。その他本法は多方面に応用できる可能性がある。本法のセットは双葉製作所が試作し、「ラミントン」という名で市販していることを付記する。

(国立科学博物館)

A new technique and instrument for mounting herbarium specimens are introduced. Thin Japanese or chemical paper laminated with polyethylene on one side is used for mounting tape. Electric soldering iron with particular shaped tip and controlled by current regulator is used for heat-sealing the tape. This method is found to be quite easy and convenient to practise yielding durable mounting with beautiful finishing and to have very wide range of application.